

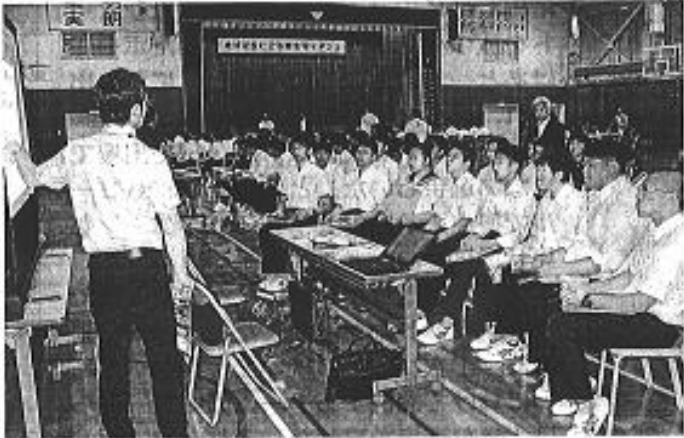
【北海道新聞(7月16日号)に掲載されました】

本校体育館で全校生徒を対象に「地域企業による職業ガイダンス」を実施しました。今回、羽幌町商工会が中心となり、食品製造業、金融業、漁協、福祉事業者など、10企業・事業所がブースを設け、仕事内容を生徒に説明しました。

本校卒業生は、羽幌町外に就職することも多く、生徒たちは町内外の事業所でどのような業務を行っているのか知ることが出来ました。ガイダンスに参加された事業所の方々には感謝申し上げます。生徒たちには、このガイダンスをきっかけに更に進路意識を高めて欲しいと思います。

羽幌高生よ 地元で働こう

町商工会 若者確保へ説明会



【羽幌】人手不足が深刻化する中、町商工会（出口治康会長）は羽幌高で「地域企業による職業ガイダンス」を開いた。食品製造業や金融機関、漁協、福祉事業者など、町内で活動する10企業・事業所が体育館にブースを設け、仕事内容を生徒らに紹介した。

地元企業を知ってもらうことで人材の町外流出を食い止めようと、昨年初めて開催。今年は4日に開かれ、全校生徒158人がそれぞれ関心のある企業ブースを回った。特別養護老人ホームなどから説明を受けた1年の山本あすかさん(15)は「介護の仕事はきついイメージもあるが、やりがいも大きいことが分かった」と笑顔で話した。

同校によると、今春の卒業生49人のうち地元(留萌管内)で就職したのは16人だった。町商工会の渋谷弘己事務局長は「専門学校や大学に進学してからまた羽幌に戻る人のためにも、地元でどんな仕事ができるのか紹介しておきたい」と話していた。

(長谷川賢)